



TCA

— NEWS —

Vol.110 1月号

発行
富山市民国際交流協会
〒930-0002 富山市新富町一丁目2番3号
CiCビル3F富山市国際交流センター内
TEL (076) 444-0642 FAX (076) 444-0643
発行責任者 広報・組織強化委員会

研修いろいろ



外国語ボランティア養成講座 実地研修
「雨晴海岸」雨晴散策路マップをもとに散策



国内研修 ^{むらはん}村半(高山市)
築140年以上の町家を改修し、若者による地域活性化の拠点として活用



富山市総合防災訓練参加
他機関との連携練習



とやま巡り～八尾町～
「もう一つの八尾町」 井田川いしどよすいせきの石戸用水堰

国際交流フェスティバル in TOYAMA

世界中の人たちと交流体験！
観て、聴いて、食べて イベント盛りだくさん！

- 開催日** 令和7年2月2日(日)
- 会場** オーバード・ホール/中ホール
- 内容** 世界の歌と踊り、国際交流・協力団体ブース、各国紹介ブース、日本伝統文化体験、外国の料理 等
- 共催** 富山市民国際交流協会 (公財)とやま国際センター (独法)国際協力機構北陸センター



日本語クラス

外国の方向けに日本語クラスを開講しています。

- 日時** 水曜日 10:30～12:00
18:30～20:00
金曜日 10:30～12:00
- 場所** ・5回コース
1500円+教材費
・会話コース1回300円

ほか

外国語ボランティア養成講座

第3回 とやまの紅葉 8月24日(土) 参加者36名

第1部 講演 「富山の秋を巡り、紅葉を満喫しましょう
～世界中で絶賛される日本の紅葉の秘密を紹介～」

講師 富山県自然解説員 当協会ボランティア委員長 大野 博美さん

「落葉樹」は秋に葉を落とし、春に新しい葉をつけますが、
「常緑樹」は一年中葉をつけています。

日本が紅葉の美しさで知られる理由は3つです。

- 1 日本特有の四季の変化がはっきりしていること
- 2 落葉広葉樹が多いこと
- 3 日本の文化や伝統的背景(並木を作るのが好きな日本人の国民性など)

〈落葉のメカニズム〉

太陽光が弱まり光合成が止まるとデンプンやたんぱく質が作られないので葉緑素が分解されてしまいます。すると今まで隠れていた黄色の色素(カルチノイド)が表れて黄色になり、その後、光合成で残っていた糖分が変化し、赤い色素(アントシアニン)が出てきます。

葉は乾燥や寒さに弱いので、冬の休眠に入る前に無駄なエネルギーを使わなくてすむように葉をすべて落としてしまいます。

〈紅葉の条件〉

標高が高くせせらぎがある次の条件のところが紅葉を作りやすいです。

- 1 昼と夜の寒暖差が大きいこと
- 2 太陽の光(紫外線)にたくさん当たること
- 3 適度な湿気があること

《富山市内のおすすめスポット》

『富山城・松川・いたち川』、『平和通りのイチョウ並木』、『呉羽丘陵、長慶寺』、『大沢野の寺家公園』、『神通峡』など多数あります。

第2部は語学研修として、英語、中国語のグループに分かれて、外国の方たちに説明する際に必要な語彙や表現を練習しました。



実地研修 9月29日(日) 参加者28名(英語、中国語グループ)

あいの風とやま鉄道 & JR氷見線で行く

国宝 雲龍山勝興寺&雨晴海岸・道の駅「雨晴」

協力 勝興寺観光ボランティア 2名 太田雨晴観光協会観光ボランティア 4名

勝興寺は1998年から23年かけた平成の大修理が終わり、江戸時代の壮麗な大伽藍がよみがえりました。2022年12月に本堂と大広間及び式台が国宝に指定されています。2023年の外国語ボランティア養成講座においても観光ボランティアの方にお話してもらっています。

外国の方たちへ説明する視点で今回も観光ボランティアガイドの方々に案内していただきました。桐と菊が配置された襖や七不思議など外国の方々にも案内しやすいポイントが各所にあると感じました。

雨晴は、JR雨晴駅から道の駅雨晴まで「雨晴散策路マップ」をもとに観光ボランティアガイドの方々に、上杉謙信伝説のある「首切り地藏尊」、松尾芭蕉の「奥の細道句碑」、それに加えて地元以外ではあまり知られていない「ビューポイント」などを紹介していただきました。

勝興寺、雨晴ともに観光ボランティアガイドの方々のお話は大変分かりやすく、今後案内する際の良い参考になりました。

伏木港にはクルーズ船「ウエステルダム」が停泊しており、2000人もの観光客が訪れるという日で、伏木駅構内や駅前には案内のテントなどが置かれ、歓迎ムードがありました。一方で駅周辺にはまだまだ地震の爪痕が残り、雨晴海岸では、豪雨後の漂着物が大量に流れついていて、胸が痛くなりました。

一日も早い復旧を願っております。



富山市総合防災訓練

災害時外国人支援語学ボランティア研修会および事前研修会

9月14日(土) 参加者19名

前半は、外国人住民が直面する課題や訓練当日の活動内容、やさしい日本語について説明がありました。避難所においては、外国人住民に避難所での生活ルールやマナー等を理解してもらうと同時に、避難所運営者や日本人住民にも文化が違う外国人住民が避難してくることを理解してもらうことが大切です。

能登半島地震で被害があった地域には、イスラム教徒のインドネシア実習生が多く居住していました。普段から宗教上の留意点を知っておくことも大切です。

後半は、英語とやさしい日本語*のグループに分かれ、巡回通訳訓練や災害対策本部からの情報を翻訳する練習をしました。やさしい日本語への書き換えは、単に簡単にするだけでは伝わらないことや、漢字が少ないと単語の区切りが分かりにくいこと、中国の方にはかえって難しいことなど、課題も多々あることを実感しました。



富山市総合防災訓練に参加

10月6日(日) 大沢野会館ほか 参加者36名

総合防災訓練では、約40の機関(団体) 約500名が訓練に参加しました。当協会では、以下の訓練や見学、体験を行いました。

① 通訳・翻訳訓練(英語、中国語、やさしい日本語)

保健師の方による健康相談の通訳訓練

災害対策本部からのライフラインなど避難所で発信される情報を翻訳し、掲示する訓練

② 外国人参加者に対する防災オリエンテーション

「避難所」「事前の備え」などをグループ毎に説明

③ 他機関・団体の訓練展示(防災の備え)の見学や体験

訓練を通じて、日頃からの準備の大切さを実感するとともに、より具体的な訓練方法について考えていかなければいけないと痛感しました。



*「やさしい日本語」とは、日常生活で使われている言葉を、外国人にも分かるように配慮した簡単な日本語のことです。災害発生時に、日本語が不慣れな外国人に、迅速かつ正確に情報を伝えることを目的に考案され、当初は、災害時の情報伝達手段として使われていましたが、現在では、自治体や外国人支援団体で、生活情報や観光情報などを伝える手段としても使われるようになりました。

MPB(ブラジルのポピュラー音楽)で学ぶポルトガル語講座

講師 白川 セリナ サナ工(当協会ポルトガル語相談員)

毎回いろいろな歌を通してポルトガル語を勉強しています。

9月 9日(月) Vamos Fugir (Skank)

10月 7日(月) Pedoro Pedreiro (Chico Buarque)

11月11日(月) Garota de Ipanema (Ton Jobin)



委員会報告

総務企画・姉妹友好都市

総務企画委員会「国際交流TCAカレッジ」・姉妹友好都市委員会「特別講座」
「草の根ボランティア～物資や義援金を現地まで届ける原動力～」

参加者25名 11月9日(土)

講師 NGO アジア子どもの夢 代表 川淵 映子さん



川淵さんは、主に海外の被災地や貧困地で活動されている方だと思っておりましたが、東北の震災の時も支援されたし、現在は能登でのボランティア活動を継続中だそうです。

ボランティアというと炊き出しや倒壊家屋の後片付け、避難所での支援などが思い浮かび、大変そうだとつい二の足を踏んでしまうのですが、川淵さんは、まず自分の目で被災地を見る事が大切だと言われました。特にこれからの日本を担う若い世代が、現状を自分の目で見て、何かを感じてくる必要があると強調されました。実際、川淵さんのグループでは食材を届ける、被災者の話し

相手になる等の活動も行なっているそうです。その他に被災地の特産品などを買ったり食べたりして、誰でも支援活動に加わることができると話されました。

この講演の翌日、また能登に行くという川淵さんは、どうしてそんなに元気なのかと良く聞かれるそうですが、「被災地に行って活動していると、たくさんの人から『ありがとう』と言われる。これは私にとって素晴らしいご褒美、言葉のプレゼントになっている。そしてまた来て欲しいと言われることが励みになる。」のだそうです。

常に被災地で今、何が必要なのかを考えている様子から、物資や義援金だけでなく心も届けていらっしゃるのだと強く感じました。(宍戸 公子)

総務企画・姉妹都市

国内研修 国際交流・異文化理解に必要な知識を学ぼう！高山・神岡方面

参加者26名 10月14日(月・祝)

今回の国内研修では、飛騨高山と神岡を訪れました。富山からバスで約2時間半かけて移動し、まずは高山市の「村半(むらはん)」を見学しました。この施設は、築140年以上の町家「旧村田邸」を改修し、若者による地域活性化の拠点として活用されています。外国人支援の交流活動についても説明を受け、地域に根ざした取り組みに感銘を受けました。

昼食には飛騨牛の定食を堪能した後、神岡にある「レールマウンテンバイクガッタンゴ」を体験。旧神岡鉄道の廃線を利用したこのアクティビティでは、線路の振動や音を楽しみながら自転車で走る新鮮な体験を満喫しました。老若男女問わず楽しめるアトラクションであると感じました。

「村半」と「ガッタンゴ」は、古い施設に新たな役割を与える点で共通しており、地域の魅力を再発見する機会となりました。

秋晴れの中、素晴らしい企画を用意して下さった関係者の皆様に心から感謝いたします。(光永 勝芳)



文化交流

和菓子作り体験 参加者22名

今回は3月2日
華道体験です。

10月20日(日)

今回初めての試みとして、松川沿いの「松川茶屋」で和菓子作り体験会を行いました。

ハロウィンが近いことにちなみ、テーマは「かぼちゃとお化け」。

生地をこねて餡を詰め、微調整を加えながらそれぞれのデザインを整えていきました。ほとんどの参加者にとって初めての体験だったため、終始楽しくお話ししながらの体験会となりました。

ケニア出身の参加者は、自分の国では甘い豆は食べないので日本の和菓子は甘すぎると言いつつもお抹茶と一緒に楽しんでいました。

日本人でもなかなか体験できない和菓子作り、皆さんもぜひやってみては…。

創作和菓子と抹茶のセットをいただいた後は、富山城址公園の庭園を散策し、秋晴れの1日を満喫しました。

参加者より

- ・ハロウィンが近いのでジャック・オー・ランタンとお化けのお菓子を作りました。和菓子と言えば紅葉など季節を表すものと思っていたのですが、外国の方にも親しみやすく楽しく作ることが出来ました。
- ・あんこを手のひらで丸くのはずのが難しく、手で転がして形を作るのに苦労しました。



爽やかな秋の散策日和に、おわら風の盆で有名な八尾町を訪れました。富山県自然解説員大野博美さん(当協会ボランティア委員長)のガイドのもと、JR越中八尾駅を出発。目指すは“もう一つの八尾町”。風の盆の町流し地区とは井田川を挟んで対岸のエリアです。複数の川が合流するこの地は、昔から水害に悩まされ川に流れ込む水量を制限するため用水路を縦横無尽に発達させました。水音も涼しげで夏は涼を取り、冬は排雪などに活躍します。500年も前からある高台の神社蔵王社を訪れると遠景の劔岳もきれいに見えました。豊かな水量をたたえる用水路沿いを歩くと、色づいたカラスウリもたわわで、冬鳥のジョウビタキがこんにちは！大野さんの自然解説に参加者もワクワクです。川の作用で角が取れた丸い石が堆積した地層も見られ、丸い石を活用して作った井田川の石戸用水堰もみごとに自然に馴染んでいました。川の水を逃す工夫があちこちにあって、治水の知恵に感心しました。十三石橋の看板で「飛騨街道」の要所として産業が栄えたことを学び、駅まで戻って散策を終えました。



国際教養

多国言語文化交流クラス

英語プレゼンテーション

9月3日(火)



「アイルランド&アイルランド語」
Mr. Brendan Bracken

11月5日(火)



「フランス・アルザス地方」
Ms. Marie Wintzer

12月3日(火)



「Art is telling stories of emotions without words」
Mr. Jiří Suchý
Czech glass artist

国際教養委員会では中国語などいろいろな講座があります。



広報・組織強化

富山に住む外国のひとたちへ

雷鳥だより

11号(12月)発行しました。

やさしい日本語・英語・ベトナム語

●11号

- P1 イベントのお知らせ「自転車運転の罰則が厳しくなりました。」
- P2 年末年始の過ごし方
- P3 冬に美味しい富山の食べ物「ぶり」と「べにずわいがに」
- P4 冬の外遊び



当協会のHPで見れます。

社会に学ぶ「14歳の挑戦」 ～山室中学校2名～

9月2日(月)～6日(金)までの活動でした。以下、生徒さんからのお礼状の抜粋です。

Mさん

仕事の大変さ、大切さを学ばせていただきました。特に機関紙(TCAニュース)発送が一番印象に残っています。一通ずつ宛名や郵便のシールを貼って、機関紙やチラシなどを封筒に入れていくという、とても大変なことを毎回手作業で行っているのがすごいと思いました。

Fさん

日本語クラスや日本語ボランティア養成講座に見学など、たくさんのご経験をさせていただき、とても勉強になりました。どんな作業でもすごく丁寧にやってらっしゃる姿を見て、一つ一つの仕事の大切さを感じました。



新規会員募集中！

富山市民国際交流協会では、市民のみなさんが幅広く参加できる国際交流を推進するため、新規会員を募集しています。

みなさんも私たちと一緒に、富山市の良さや国際交流の楽しさを発見しましょう！

ご入会特典

- ★協会広報誌TCA-NEWSをお送りします。
- ★各種イベントのスタッフとしてボランティア活動に参加し、外国の方と交流できます。
- ★語学講座や研修旅行、講演会に参加できます。

年会費(一口)

個人会員 3,000円 家族会員 5,000円

優待会員*

大学生(短大生、専門学校生を含む) 1,500円

高校生 500円

法人・団体会員 10,000円

寄稿

“青年時代の夢「ヨット製作」を富山で！”

昨年度、外国語ボランティア養成講座実地研修にて訪問したケビンさんに寄稿していただきました。



Coming to Japan - My Story

Kevin Moxey

My name is Kev Moxey, an Australian who has lived in Sydney for most of my life.

This is the story of how I came to be not only living in Japan but also building a 47' sail boat here.

In 2005, during a period of time where my marriage had broken down, I met a beautiful Japanese lady at church in Sydney. Her name was Megumi.

As I was transitioning through the turmoil of the marriage relationship, I gave myself 12 months to either allow the relationship to be restored or to let it go, so I was not looking to start any sort of relationship with her. During year we continued to be friends.

The day came when the 12 months were up, there was no sign the marriage was going to continue, so the very next day I invited Megumi out for dinner, 1 month later we were engaged and 6 months later we were married in Sydney.

Over the next 13 years we traveled to Japan twice a year to visit Meg's family.

In April 2019 during one of those visits we realized that Meg's mother's health was declining and that we would need to come and look after her.

We returned to Japan in October of that year with a plan to make the move to live here by the end of 2020.

At this stage we had already made the decision that for me, I would build a boat during the time we were living here. I met with Miyuki san, whom I had met some years earlier, to tell her about my idea and that I was looking for a place to build it. She put me in contact with one of here friends, Takamori san, who was a member of the Toyama Yacht Club.

I arranged to meet with him one Sunday afternoon and show him the drawings of the design I was wanting to build. At the time of the meeting Takamori san also invited the president of the Yacht Club, Takakuwa san, to come.

It was an interesting meeting as neither of them had ever heard of someone building a yacht this big and that this crazy Australian who has never built a boat before wanted to build one in Toyama.

2020.....the world was hit by the corona virus, travel between countries was stopped and we had no way to try and get here to locate a building big enough for the boat.

During that year Takakuwa san was really helpful in sourcing a building that would be suitable.

In the final few days of 2020 we packed up all our belongings in Sydney and moved to Toyama. We signed a lease to rent the building in January 2021 and then started the process of organizing delivery of all the parts that would be needed to build the boat.

By July, both containers had arrived, cleared customs and were delivered to what I am now calling it, The Boathouse.

It has been just over 3 years now of building and the boat is looking great, the same comment is made by everyone that



comes to see it.....”Its much bigger than I thought “

It has been a real privilege to meet so many people locally and from all over Japan as they come to check out what has become the largest sail boat now being built in Japan.

Work continues I am hoping to have it completed in the next 2 years. Of course, the Boathouse is open to anyone that would like to visit and see for themselves.

Please contact me first for the best times to visit.

Saltandlight470@gmail.com

.....
(訳文要旨)

Coming to Japan - My Story

ケビン・モクシー

私の名前はケビン・モクシー、人生の大半をシドニーで過ごしたオーストラリア人です。

これは、私が日本に住むようになり、全長約14mのヨットを日本で製作することになった経緯です。

2005年それまでの結婚生活が破綻していた時期、私はシドニーの教会で美しい日本人女性と出会いました。彼女の名前はメグミ。結婚生活の混乱の中で、1年間どうすべきか悩んでいました。その間、私たちは友人関係を続けました。1年が過ぎた日決断し、1カ月後に婚約、6カ月後にシドニーで結婚式を挙げました。

それから13年間、私たちは年に2回、メグの家族を訪ねるために日本を訪れました。

そしてメグの母の介護のため10月に日本に帰国し、2020年末までにはここに引っ越すことにしました。

この段階で私たちはここに住んでいる間にボートを作ろうと決めました。友人に会い、私のアイデアとヨットを作る場所を探していることを話すと、彼女は富山ヨットクラブ会員の方を紹介してくれました。そして、富山ヨットクラブ会員の方と会長と会う約束をし、私が作りたと思っていたヨットの図面を見せました。こんな大きなヨットを作る人がいること、ましてやヨットを作ったこともないクレイジーなオーストラリア人が富山でヨットを作りたと言っていることに、二人ともたいへん驚かれたようでした。私たちにとって興味深い出会いとなりました。

2020年…世界中にコロナ・ウイルスが蔓延し、各国間の移動が止まり、私たちは富山に来てヨットを製作するのに十分な大きさの建物を探そうにも、その方法がありませんでした。

その1年の間に、会長が適切な場所を見つけてくださり、本当に良かったです。

そして2020年年末に富山に引っ越しました。2021年1月に建物を借りる契約を結び、ヨットを製作するために必要なすべての部品の配送手続きを開始しました。7月までにコンテナは2つとも到着し、通関手続きを経て、私が今「ボートハウス」と呼んでいる場所に届けられました。

製作から3年余り経った今、ヨットは素晴らしい姿になり、見に来てくれた人たちはみんな、「思ったよりずっと大きい。」と同じ感想を口にします。地元はもちろん、日本全国から、現在日本で製作している最大のヨットを見に来てくださる多くの方々にお会いできることは、本当に光栄なことです。2年以内に完成させたいと思っています。もちろん、このボートハウスは見学自由です。

見学の日時については、まずご連絡お願いします。

E-mail : Saltandlight470@gmail.com

令和6年度富山市美術展でユース賞を受賞！

Joanne Liselle

Almost two years ago, I moved to Toyama and began my journey as a full-time artist. Inspired by the beauty of the Japanese countryside, nature has become a central theme in my art. I combine Western painting techniques with locally crafted washi paper to create paintings rich in colour and unique texture. To me, art is a portal to other worlds—a place where the boundaries between reality and imagination blur. This year marked a milestone in my journey, as my work was exhibited for the first time and awarded the Youth Prize at the Art Exhibition of Toyama City. My painting 'Exhale' explored the importance of finding inner peace in the busyness of modern life. One of the most rewarding aspects of sharing my artwork has been hearing how other people find their own stories and meanings within it. As my journey develops, I look forward to creating more art that invites people to step into their own dreams.

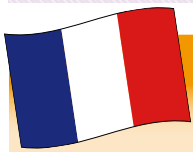
(訳文はP8にあります。)

令和6年度富山市美術展でユース賞を受賞！

Joanne Liselle

約2年前に富山に移り住み、アーティストとしての道を歩み始めました。日本の田舎の美しさに触発され、自然が私のアートの中心テーマとなりました。西洋画の技法と地元産の和紙を組み合わせ、豊かな色彩と独特の風合いを持つ絵画を制作しています。私にとってアートは別世界への入り口であり、つまり現実とイマジネーションの境界が曖昧になる場所なのです。今年は節目となりました、私の作品が初めて展示され、富山市美術展でユース賞を受賞しました。私の作品「Exhale」は、多忙な現代生活の中で心の平穏を見出すことの重要性を探求したものです。私の作品を他の人に見てもらうことで最もやりがいを感じる一つのひとは、人々が作品の中に彼ら自身の物語や意味を見出しているのを知ることです。私の旅が進むにつれて、人々が自分自身の夢に踏み出すよう誘うような作品をもっと制作することを楽しみにしています。

(原文はP7にあります。)



フランス・アルザス地方

令和6年11月5日(火) 多国言語文化交流クラスより

講師 Ms. Marie Wintzer

アルザスは、ストラスブールやコルマールなどの都市がある美しい地方です。フランス・ドイツ・スイスとの国境に位置し、長い間ドイツとフランスに交互に統治されてきたため、両国の文化が混在しています。

コルマール出身のイラストレーターのアンジーは民族衣装を着たかわいい少女の絵で有名です。イラストにはアルザスへの愛情や平和へのメッセージが込められています。

アルザスの村には「コロンバージュ」と呼ばれる半木骨造(木骨組み、漆喰固)の家屋(中世の伝統的な家屋建築)が見られます。これは14世紀にスイス・バーゼルで大きな地震があった頃からのもので、この構造は耐震に優れていると言われています。アルザスの木造建築には日本の古民家との共通点も見られます。



クリスマス時期に飾り付けられた家々(コルマール)



お母様手作りクリスマス伝統菓子クグロフ

アルザスのクリスマスはとても美しく、広場ではクリスマスマーケットが開かれます。かわいい木の小屋が連なるマーケットでは、クリスマス雑貨やお菓子、ホットワインなどが売られます。ストラスブールでは巨大なクリスマスツリーが街を飾り、コルマールは美しいイルミネーションとかわいい飾りで街全体がおとぎ話の世界のようです。

12月6日はサン・ニコラの日で、サン・ニコラがロバに乗ってプレゼントを運んできます。クリスマスの伝統菓子「クグロフ」や「マネレ(小人のブリオッシュ)」などのお菓子を家族そろって一緒に食べるそうです。

休館日 1月21日(火)、2月18日(火)・19日(水)、3月18日(火)

おめでとうございます。

令和6年度
とやま国際交流
草の根交流賞受賞

中川 泰三さん



編集後記

新年あけましておめでとうございます。新しい年を迎え皆様はどの様にお過ごしでしょうか。

昨年は協会が主催したイベントに多くの人が参加され国際交流が盛んに行われました。

今年は新年早々に私達にとって大きな行事が控えています。それは2月2日(日)開催される国際交流フェスティバルです。多くの人の来場を得て開催される事が私達の望みです。(大森)